

須恵器や堺の歴史の豊かさを実感

堺市立泉北すえむら資料館と須恵器^{すえき}復元^{かまあと}窯跡を見学

平城宮の食器もすべて「泉北すえむら」産！！

堺市を中心に20人が参加され、森村さんの明快なお話に感動しながら、熱心な質問があいつぎました。

須恵器とすえむら（陶邑）

・・・森村健一さんの講演から

1、須恵器を焼いた陶邑はどこか？

北は土塔 南は光明池 東は狭山池
西は鶴山台・・・約10km四方

2、いつの時代のことか

仁徳陵古墳を造った5世紀から10世紀代。
古墳時代～平安時代

3、須恵器窯は窖窯（あながま）

※登り窯＝地上にトンネル状の窯をきざく
あな窯＝地面をトンネル状に掘りこむ

穴を掘り、下に焚口があった。『歴史たんけん堺』のページの絵がよくわかる。

窖窯は1年に1回ぐらいしか使わない。25回ぐらい使った所も見ついているが、これは多い方。
地震でこわれた窯もある。

4、須恵器はなぜ灰色か？

5世紀は、中国の灰陶や朝鮮の陶質土器の時代。赤でなく、灰色の器を作ることが必要だった。
焼く時に空気が入ると赤くなる。土器は700～800℃、須恵器は1000～1100℃の窯で焼いて出入り口を閉めて酸素不足にして灰色に仕上げることができた。

5、須恵器は日本最初の陶磁器

土器は光を通すが、陶磁器は通さない。ロクロを使う。
窯のまわりの灰原で、カケラをつけて発見されている。

6、いつから須恵器を生産したのか？

5世紀代の^{おばでら}大庭寺遺跡が一番古い。 (2005年に陶邑の須恵器2000点余が国の重要文化財に指定された↑)

7、陶工はどこから来たのか？

450年頃に高句麗に攻められた新羅の陶工が^{しらぎ}大庭寺にやってきた。475年頃、^{くたら}百濟から高蔵にやってきたという韓国釜山大学申さんの説が有力。



ふるさと朝鮮半島では、洛東江（ナントンガン）の左岸が新羅 右岸が百済。

すえむらでは、石津川の左岸（梅・大庭寺）に新羅系、右岸（高倉寺）に百済系の窯が造られた。

8、仁徳陵古墳（大山（だいせん）古墳）の大王と須恵器生産開始との関係

粘土やマキはどこにもあるが、百舌鳥・古市古墳群に近いここで、国家のための食器を作る必要があったと言える。

須恵器は庶民も使ったが、官窯と民窯があったかも知れない。

9、なぜ須恵器生産は中止したのか？

平安京では淀川を渡らねばならなくなり、中央に高級食器を送る本来の目的が困難になった。平安京の西、亀岡で須恵器生産が始まった。

山の木を切りすぎて荒れたからと言われるが、植樹して順に使っていたようで、100年後に同じ場所に戻って築いた窯があることから、そのためにすたれたというのは違いうだろう。

平安時代には、中国の陶磁器、青磁や白磁が入ってきてかわっていく。日本では緑釉陶器が亀岡の篠窯で焼かれた。



10、須恵器の陶工はどこへ行ったのか？

各地に移住して、備前焼・美濃焼・伊賀焼・丹波焼などを伝えている。

←大蓮公園の復元窯と森村健一さん

1972年に調査された梅61号窯。泉北丘陵の中でも最大のもので、原寸で移築・復元した窖窯。

「手前の平らな部分でマキをたき、上部に煙道を設け、斜面に壺や甕を置いて焼きあげた」と説明されている。



参加者の感想より

- ☆土器・陶磁器やら、展示物を見るだけでは退屈だったんですが、奥深い歴史があることが実感できました。盛りだくさんの内容で楽しかったです。家族と一緒に来館してみようと思います。
- ☆須恵器生産・使用についてもっと深く知りたかったので、森村先生のお話と解説で知ることができてたいへんよかったです。
- ☆陶器の歴史を実感できました。
- ☆堺が須恵器の始まりの地だとわかっていたのですが、その意味の重大さを知りました。とても楽しい見学でした。



楽しい歴史学習とまち歩き、
歴史と文化のまちづくりに
「歴史たんけん堺」の活用を。

大阪歴教協堺支部&堺たんけんクラブ
☎ 08024442098 (小松)